

## 主 題：自由と向き合う 3

## 聖書箇所：ローマ人への手紙 6章20-23節

罪赦されて新しく生まれ変わった者たちがどのように生きるのか。そのことを教え続けて来たパウロ。彼は「新しい生き方の実践」を私たちに教えてくれました。前回、そのことを見ました。新しく生まれ変わった者は新しく生きる、そのような者へと生まれ変わったのだとパウロは私たちに教えるのです。

## B. 新しい生き方の実践を勧める理由

そして今日、私たちが見る20節からは、なぜ、私たちがそのように生きて行くべきなのか、その理由についてパウロは教えて行きます。クリスチャンの皆さん、あなたは救われたのだから、救われた者にふさわしく生きて行きなさいと彼は勧めるのです。この大切なことを彼は教えて行くのですが、教え方として彼が用いた方法は「対比」です。「かつての自分」と「救われた今の自分」とを比較するのです。救われた者がかつてのような、罪の中を歩み続けるということがどうなのか——。そのようなチャレンジに対してパウロは、私たちは生まれ変わったのだから決してそういうことはあってはならないと言います。彼はこれまでに、バプテスマを通して、奴隷ということを通して、このような比喻を用いて、私たち救われた者は決してこれまでと同じような生き方ができないのだということを説明して来ました。この説明は6章で終わるのではなく7章の初めにも出て来ます。今度は結婚という例えをもってパウロはそのことを教えて行くのですが、それはまた次回学んで行きます。

1. **かつての自分**：「罪の奴隷」として生きる人生が保証した三つのこと 20-21節

さて、この20節のから、かつての自分はどうかだったのか、かつてのあなたはどのような存在だったのかということをおぼえてあげようとして、あなたは救われる前は罪の奴隷であったと言います。そして、あなたが罪の奴隷として生きて来たその人生が保証した三つのことをもう一度思い起こさせるのです。罪の奴隷に約束されていた三つのこと。それがこの20-21節に出て来ます。

## 1) 恥じ入る人生 20-21節

一つ目に、罪の奴隷として生きる人生が約束してくれたことは「恥じ入る人生」です。21節を見ると「**その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、**」とあります。「**恥じている**」、このことばの説明は必要ありません。私たちがそのようなことばを使うからです。しかし、このことばをもう少し詳しく見ると「～のゆえに」と「恥じる」という二つのことばが一つになっている合成語です。ということは、恥をもたらす理由、その原因があるのです。しかもそれが自分にあるのです。ですから、このようなことをあなたがして来たゆえに、あなたの人生はまさに恥じ入る人生であると言うのです。そのことについてパウロは私たちに教えてくれます。このような生き方、歩みだったから、今、振り返ってみると、それは本当に恥ずかしい、口に出したくもないような生き方であったと。

## (1) 義については自由にふるまっていた

もう一度20節を見て「**罪の奴隷であった時は——救われる前のこと——あなたがたは義については、自由にふるまっていました。**」、これが救われる前の人々の生き方、これが生まれながらのイエスを信じる前までのあなたの生き方だとパウロは言うのです。この「**ふるまう**」というのは「**そのように生きる**」ということ。義に関しては自由に生きていたのです。思い出してください。私たちは、奴隷という比喻をもって教えたパウロの教えを学んで来ましたが、だれが主人であるか、その主人にしもべは忠実に従うのです。神かサタンか、ふたりの主人しかいないのです。どちらかに仕えているのです。そして、私たちは生まれながらにサタンのしもべ、奴隷として、その主人であるサタンを喜ばせることをこれまでにして来たのです。そのことをパウロはまたここで私たちに少し教えてくれます。生まれながらに義が私たちの主人でなかったから、私たちは義を全く無視して、その方に服従することもなく、自由勝手に気ままに生きていたのだということを言うわけですが、義が主人ではないから義に従おうとも、また、従いたいとも私たちは思っていなかったのです。かえって、自分の思いのままに生きていたのです。英語の聖書を見ると「**義の支配から自由であった、義のコントロールから自由であった**」とあります。まさに、自分の思いのままに生きていた、そういう生き方です。この「**ふるまっていた**」という動詞はおもしろい時制を使っています。この時制が表わすことは、パウロは明確な事実としてこの出来事を述べているのですが、これは過去において継続して為されていた行為を表わしているのです。なぜ、その時制を使っているかというところは違いますが、私たちが信仰者が過去を振り返った時に、確かに、私は過去にそういう生き方をして来た、そ

それは事実だ。しかし、救われてから私は変えられている、かつての生き方をそのまま今も継続しているというのではない、それはもう過去のことだと言い、そのような時制をここで用いるのです。それによって「今は違う」と言うのです。これは過去のことだということを強調するのです。

## (2) 自分自身で選択していたから

だれが自由にふるまっていたのでしょうか。あなたや私です。罪人自身です。罪の中を歩んでいる人々は自分の意志に反して、いやいやながら罪を犯し、神に逆らって来たのではないのです。イエスを信じる前、皆さんが罪を犯したくなかったのに無理やりに罪を犯させられたと、もし、私たちが言っているとしたら、それは事実ではないと言うのです。自由にふるまったのはあなたであり私なのです。好きに生きる選択をしたのは私たちなのです。神に逆らうという選択は私たちのものなのです。神の前に正しい義なる生き方など私たちには関係ないと言って、好き勝手な生き方を選択したのは私たちなのです。パウロはそのことを明確にここで言うのです。あなたは「自由にふるまっていた」と。だれかから強制されたのではない、それがあなたの選択であり、あなたはそのことを望んでそのように生きて来たのだと。だから罪の奴隷なのです。私たちは見事にその主人である罪を喜ばせる生き方を喜んでやっていたのです。違いますか？私たちは自分の好きなように生きることができれば本当の満足を得られると思っていなかったか？子どもの頃は親から干渉されてうるさく言われて、もうこの家を早く出たい、自由になれば私の好きなことができる。でも、好きなような生き方をしてそこに私たちが望んでいるものがあつたかどうかです。いや、これを手に入れたら、こういう生活を手に入れたら、こういう環境を手に入れたら私はきっと幸せになるに違いないと、一生懸命そのような夢を追いかけていました。そして、私たちは気が付いてみると年数だけが経っていました。いったい、自分の人生は何だったのかと、そのようなことを本当に後悔して、絶望の中を歩んでいる方はたくさんいます。それが証拠に、毎日、多くの人が希望もなくいのちを捨てています。この国においては1日に約100人近い人々がいのちを捨てているのです。希望がないからです。罪の奴隷として生きる生き方に祝福がないからです。

パウロは19節で「その手足を義の奴隷としてささげなさい」という勧めをしました。なぜでしょう？すでに見たように、かつて私たちは不義の奴隷として自分のすべてをささげて来たからです。私たちは不法と汚れに、そのような性的な罪だけではなく、あらゆる罪に自らを委ねて生きて来た、様々な汚れた不道徳の行為や快楽を求め、肉欲の趣きままに生きて来た。またそれだけではない、私たちはそのように汚れたことを口にするような生き方もして来た、だから、パウロは言うのです。「口にするのも恥ずかしい」生き方だと。エペソ5：12にあります。「**なぜなら、彼らがひそかに行なっていることは、口にするのも恥ずかしいことだからです。**」、かつての自分の生き方を見るなら、私はそれを口にするのも恥ずかしいと。

自分が一番である、自分を一番愛するとして生きている人々は、そのような思いが創造主なる神や他の人々に対する行動や態度に、またことばに現われています。そのことをパウロは私たちにすでに1章で教えてくれました。彼はこのローマ書1章で、私たちがいかに神の前にさばきを受けるべき存在であったかということを教えていました。ローマ1：29-31「**彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、<sup>30</sup> そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、<sup>31</sup> わきまえのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。**」こうして私たちは神に対して、また人々に対して罪を犯していたのです。32節「**彼らは、そのようなことを行なえば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行なっているだけでなく、それを行なう者に心から同意しているのです。**」、悪いことを行なえば必ずさばかれるということはみな知っているにもかかわらず、その行ないを悔い改めて正しいことを行なおうとはしないと言うのです。私たちもそうでした。罪の呵責はありました。責められる部分はありました。良くないと感じることはありました。だからと言って、私たちはそれを止めて正しい歩みをしようとは思って来なかったのです。

パウロは私たちに、あなたの罪の行為の責任はあなたにあると言っているのです。私たちは人のせいにはしたくないです。そうすると私たちは少し自らの罪悪感から解放されるからです。でも、罪を犯すという行為は自らが選択している行為なのです。クリスチャンになってもそうです。人のせいにはできないのです。私たちは自分の選択に対する責任があるのです。恐らく、ここにおられる信仰者の皆さんも、なぜ自分はこんなに罪深いのかと何度も嘆かれたことと思います。自分が分かれば分かるほど嫌になって来ませんか？どうしてこのような物事の考え方をするのか、なぜこんなことを繰り返すのだろうと。考えないようにしようとしても、その思いはすぐに出て来るし、言わなくていいことをすぐに言ってしまうたり、しなくてもいいことをしてしまったり、正しいことであっても間違った方法でやったり、しかも、そこにすぐそれを弁護しようとしている自分がいるのです。恐らく、

ほとんどの皆さんがそのような葛藤を経験しておられることと思います。クリスチャンの皆さん、でも、私たちには希望があるのです。その後、パウロが私たちに教えていってくれます。そのような私たちも変えられて行くのです。でも、もし、この中にまだイエス・キリストを信じていない方がおられるなら、このような罪の行為は、一生懸命心を改め、一生懸命正しく生きようと努力しても、それではどうにもなりません。あなたの行ないだけを変えようとしても、行ないはあなたの心を変えてくれません。問題は心です。なぜ、このような罪の生き方を私たちは継続するのでしょうか？聖書が教えるように、それは私たちの心に問題があるからです。イエスが言われたように「**人から出てもの、これが人を汚すのです。**」。マルコ7：20-23「**また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。：21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、：22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、：23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。**」、だから問題なのです。心が罪に汚染されているから、そこから出て来ることはすべて罪に汚染されていると、そのことを表わす行為、ことばなのです。この心が変わらないとどうにもならないのです。心が問題なのです。そのような生き方をして来た私たちは、神の一方的な恵みによって救い出されたのです。パウロが言ったように、信仰者の皆さん、あなたのこれまでの救いをいただく前の生活を振り返ってみてください。どれほど私たちが神の前に恥ずべき生き方を選択して、神に逆らい続けていたのか、そのことをしっかり覚えることです。どれほど神の前に恥ずべき生き方をして来たことでしょうか。

この自分の罪の生き方を恥じるということはいつも正しいことです。エレミヤが8：12でこのように言っています。「**彼らは忌みきらうべきことをして、恥を見ただろうか。彼らは少しも恥じず、恥じることも知らない。だから、彼らは、倒れる者の中に倒れ、彼らの刑罰の時、よろめき倒れる。**。」と主は仰せられる。」、神の前におけるこのような罪深い自分の生活を見て「別にいいでしょう…、みんなもしていることじゃない、それでいいじゃない、自分が楽しめば……」と。それを恥じない人々には必ずさばきがあるという神の警告があるのです。信仰者の皆さん、あなたはそうに感じていますか？私は何という生き方を神の前にして来たことか、そして、同時に悲しいことは、信仰を持った後も、私たちはどれ程神の前に恥ずべきことを選択してしまっているのかということ。パウロがまず最初に私たちに思い起こさせること、それは、かつての私たちは「恥じ入る人生」を過ごして来た、本当に恥ずかしい、悲しい生き方をして来たということ。す。

## 2) “実”のない人生 21節

二つ目にパウロが言うことは「**実のない人生だった**」ということ。21節「**その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。**」、「**何か良い実を得た**」か、自分の好きなように生きて来て、そこに何かすばらしいものがあつたかと言うのです。自分の好きなように生きている時は、その瞬間は確かに楽しんでいます。でも、ひとりになった時に空しさが私たちの心を満たしませんか？私はイエス・キリストを信じる前、そういう思いがずっとありました。好きなように生きているのに、楽しくやっているのに、なぜ空しさがあるのだろうか？その時は楽しいのに、後でひとりになるとどうしても心の中に空しさがある…。「**良い実**」とは聖書はどのように教えているのでしょうか？私たちに明確に示しています。皆さんもよくご存じのように、ガラテヤ人への手紙5：22-23に「**御霊の実**」として記されている九つの実を見てください。「**しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、：23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。**。」とあります。パウロは「**良い実を得たか**」と質問しているのですが、答えは知っています。神を離れては、このようなすばらしい実を手にするのができた人はひとりもいないのです。この九つの実を見た時に、私たちは本当に心から愛する者になりたいと望むし、いつでも喜んでいてほしい者になりたいし、どんな時にも平安を持ってほしいし、人に対して寛容であり、親切であり、善意を持って、誠実を持って生きていきたい、私たちは人に対して柔和でもありたいし、自分をコントロールできるように自制心を持ってほしい。でも、どの点を見ても私たちは大いに欠けているではありませんか。自分の好きなように生きたら、物はいっぱい貯まるかもしれない。でも、心は空しいままです。パウロは知っていました。神の前に恥じ入る人生を送っている者がよい実を实らせることができないということ。

どうしたらいいのでしょうか？クリスチャンの皆さんも見べきところをしっかりと見ていないと、いつの間にか私たちはほかの方向に誘惑されて行ってしまいます。ですから、この同じガラテヤ5：16で「**私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。**。」とパウロは言います。ここに鍵があるのです。信仰者である私たちがどのように生きて行くべきか、この世の中であって、かつてのような生き方をするなら、そこにはすばらしい祝福はないし、このような「**実**」において私たちは成長することもないと。私たちは常に、神に助けを求めながら、私の語ることも私の考えることも私がすることも神に喜ばれるこ

とを選択して行けるように、私たちは日々の一步一步の歩みを神に委ねて、神の助けをいただきながら神のために生きて行こうとするのです。どんな時にも神の助けが必要なのです。私たちは幼な子です。しっかりと手を引いてもらわなければいけないのです。教えてもらわなければいけないのです。これが正しい道だ。そして、私たちはそのように歩んで行くことができるのです。神の助けなしに私たちは神に喜ばれる信仰生活を歩んで行くことはできません。「御霊によって歩みなさい」とみことばが教えているように、聖霊なる神にすべてをあけ渡して、その方の導きをいただきながら歩んで行きなさい、そのような歩みを為して行く時に、あなたのうちに与えられた「実」が成長して行くというのです。つまり、あなたは変えられて行くということです。

イエスは「実」によって彼らを見分けることができると言いました。イエスを信じている人と信じていない人は「実」によって分かると言われました。マタイ7：16-20「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。：17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。：18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。：19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。：20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。」、なぜなら、明らかなことは、今パウロが教えてくれたように、イエス・キリストを信じていない人のうちには、このような御霊の実はないからです。今まで恥じ入るような生き方をして来て、そこから何かよい実を得たか、実を实らせることはできないでしょう？そこに実らせた実は「汚れた実」です。だから、はっきりすると言うのです。その実はいばらが出す実なのです。ぶどうの実ではないのです。「良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結ぶ」とあります。実のない人生、正しい神の約束された実を結ぶことのない人生、神の祝福をいただくことがない人生、それが罪の奴隷に約束されていたことなのです。

### 3) 破滅の人生 21 b 節

罪の奴隷としての人生が約束している三つ目としてパウロが私たちに教えてくれるのは「破滅の人生」です。パウロは21節で「それらのものの行き着く所は死です。」と言いました。罪の奴隷としてあなたが生きて行くならそこに約束されているものは「死」であるとパウロは言うのです。私たち聖書を学ぶ者として、この「死」というものには三つの種類があることを知っています。

#### ◎三つの死

(1) 肉体的死=罪ゆえに私たちは肉体的に死ぬ者になったのです。ですから、罪の奴隷として生きたゆえに、その結果、あなたの身に約束されたものは肉体的に死ぬということです。私たちが死ぬのは罪の結果なのです。なぜなら、神が人間をお造りになった時に私たちは死ぬ者ではなかったのです。死ぬ者になった理由は私たちが罪を犯したからです。

(2) 霊的な死=神から引き離されてしまって神の特別な祝福を得ることがないのです。神はイエスを信じている人にも信じていない人にも豊かな恵みを与えてくださいます。しかし、特別な恵みは、この神を信じる人々にだけ与えられています。悲しいことに、霊的に死んでいる者はそれを得ることができないのです。本当の満足というものは神とつながっていなければ与えられません。心が本当に満たされていること、物があるとかないとかという次元のことではないのです。先ほど見たように、御霊の実によってどんな時にも喜んでいる、そのような生き方が私たちは神にあって可能なのです。でも、霊的に死んでいる者にはそれは不可能です。なぜなら、神の特別な祝福をいただくことができないからです。

(3) 永遠の死=人間は死んでそれで終わってしまうのではない、神の審判を受けます。永遠のいのちに至るか、それとも永遠の死に至るかのどちらかです。そのことはこのローマ人への手紙6章でパウロが繰り返し私たちに教えていることです。永遠のいのちか永遠ののろいかです。黙示録20：10でヨハネは「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」と言いました。サタンの奴隷の主人サタンはこのような約束を受けています。そして、そのサタンに従っている奴隷も同じ運命をたどるわけです。

### 2. **今の自分**：神の奴隷として生きる人生が保証した三つのこと 22節

パウロはまずこの6章で「かつてのあなた」について教えてくれました。その後、今度はそれと対比して「今の自分」について、今のあなたについて教えるのです。ローマ6：22に「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」と書かれています。また、ここには神の奴隷としての人生が保証した三つのことが書かれています。先には「罪の奴隷が保証した三つのこと」を見ましたが、ここではパウロは「神の奴隷に約束されている三つのこと」を記しています。

### 1) 罪から解放された人生

一つ目は「罪から解放された人生」です。22節「**しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、**」。罪から解放されて自由にされたのです。罪の束縛から自由を得たのです。そして、私たちは神の奴隷となったのです。この「**解放されて**」「**神の奴隷となり**」はどちらも「受け身」です。神に喜ばれる人生、神の栄光を現わす人生です。

### 2) 実のある人生

二つ目にパウロが私たちに言うことは「実のある人生」です。それが約束されていると言います。かつて、私たちは実のない人生を送って来たということを先ほど見ました。今の救われた私たちは実のある人生を送ることができる者へと生まれ変わったのです。そのことは21節と対比されています。先に私たちが見たように、ガラテヤ人への手紙5：22-23に九つの実が出て来ました。これらの九つの実を私たちはイエスを信じることによっていただいたわけですか？その実に関して、22節には罪から解放されただけでなく、「**聖潔に至る実を得たのです**」と書かれています。「**聖潔**」ということばは先週聞きました。「**聖潔に進みなさい**」、「**聖化**」という意味だと見ました。神の目的のために取っておかれる、神の目的のために特別にほかのものから分けられるということです。特別な目的のために分けられた者、それが「**聖化**」です。だから、この世界中の人々の中で神はあなたを特別に選んでくださり、特別にほかの人々と分けられたのです。それは神の目的のためにあなたを用いるためです。19節ではパウロは「**聖潔に進みなさい**」と言いました。「**聖潔の中へ、聖潔の方へ向かって**」ということで、聖潔において成長することを見て来ました。神の前に正しく歩み続けて行くことによって、その信仰者はますます聖い者へと、神にとって役立つ者へと、尊い働きに用いられる者へと行って行くということを私たちは見たのです。

22節でも19節と同じことを教えています。「**聖潔に至る実**」と、パウロはここで「**実**」のことを言っています。聖潔へと導いて行くそのような実を私たちは得たのだと言います。ここでパウロが言いたいことは、先ほど私たちが見たガラテヤ5章にあった「**御霊の実**」です。この実が私たちのうちでいろいろな働きをします。私たち信仰者のうちにおいてこの実が成長することによって、私たちは変えられて行くのです。どのような人に変えられて行くのでしょうか？先ほど見た九つの実において成長することによって、そのような実をうちに秘めるだけではなく、そのような実を実践によって現わすような人、愛の人になって行く、喜びをもって生きる人になって行く、そのような人へと私たちは変えられて行くのです。私たちのうちに与えられた実が成長するのです。そして、この九つの実を私たちが言動によって現わすような、そういう信仰者へと変えられて行くのです。

なぜそれが大切なのでしょう？なぜなら、この九つの実を見た時に、そのすべては私たちの主を特徴づけるものだからです。この九つの実はいエス・キリストのご性質を現わしています。つまり、神が私たちのうちに為そうとしていることは、私たちを主イエス・キリストに似た者に変えようとするということです。イエスに似た人とはどのような人でしょうか？私たちが今見て来たように、これらの九つの実が実践されている人です。イエス・キリストの人生はまさに、愛においても、平安においても、喜びにおいてもすべてにおいて完璧でした。そのような人へと私たちを変えて行くのです。そのことを考えただけで、皆さん、希望が出て来ませんか？確かに、今の自分を見るなら、今の経済のようにどん底だ、これは大変な人物だと思いかもしれません。どうにもならない！と思うかもしれません。でも、神はあなたに対する働きを止めていないのです。神はあなたのうちに働いておられるのです。なぜなら、あなたのうちにそのように聖潔に至る実を与えてくださり、そして、あなたがそのような人へと変えられて行くように、神の働きはもうすでに始まっているからです。

だから、私たちは、ここで言われるように「**聖潔に至る実を得たのです。**」、このように変えられて行くその働きをもうすでに経験している者だと言うのです。だから、私たちクリスチャンは自分の罪を見た時に、確かに、パウロが言ったように、なんと恥ずかしい生き方をして来たのだろう、なんと神の前に恥じ入る生き方をして来たのだろうと、そのことを嘆くとともに、このような私を神が変えろと言われ、今も変え続けてくださっている、主よ、もっと私を変えて行ってくださいと言って、私たちは自らを主に委ねて行くのです。私たちを変える働きを為してくださるのは神です。栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられて行くのです。これはだれの働きでしょうか？御霊なる神の働きだと言います。神はそのような働きを私たちのうちに始めてくださっているのです。そのことをパウロは私たちに教えてくれるのです。救われた私たちも実のない人生を過ごして来た者であったけれど、今は生まれ変わって、実のある人生を過ごすことができる者へと変わったと言うのです。私たちは変えられて行きます。信仰者の皆さん、あなたは変えられて行きます！主に似た者へと。

### 3) 祝福の人生

そして三つ目、そこに待っているのは破滅の人生ではありません。そこに待っているのは祝福の人生です。「そ

**の行き着く所は永遠のいのちです。」**、神の奴隷として生きた人生が確約したことは永遠の祝福です。もちろん、今見て来たように、今の時代において、今のこの時においても、神はあなたを祝してくださるのです。クリスチャンの皆さん、もしかすると、あなたは今大変なところを過ごしておられるかもしれません。経済的に大変だし、子どもを学校に送れば学校も荒れています。社会も荒れています。いろいろな人たちが私たちの周りにはいます。大変病んだ社会に私たちは生きています。辛いことはいっぱいあります。苦しいことはいっぱいあります。「神さま！」と叫ぶことはいっぱい出て来ます。でも、私たち信仰者はそういう中であって、あなたを生まれ変わらせてくださった主に信頼を置いて生きて行くのです。先のことを見ると不安を覚えます。でもそれは、その背後にいてあなたを導くと約束してくださった主を見失っているからではありませんか？あなたを罪から救ってくれた神はしっかりあなたを導いていてくれます。恐らく、私たちがこの地上にあって学び続けて行くことは、神に信頼することがどんなにすばらしいのか、そのことです。

私たちは何度も神を信頼していると言います。でも、本当には信頼していないということを私たちはいつも教えられます。それに気づくのは問題に遭遇した時ではないですか？困難に遭遇した時ではないですか？私たちは信頼していると思っていたけれど、実はそうではなかったと、その不信仰を悔い改めて神への信頼を学んで行くのです。そうして神がくださった祝福がどんなにすばらしいものか、神とともに生きられるという人生がどんなにすばらしいものかというのを私たちは日々学んで行くのです。子どもは毎日与えられる宿題やテストを受けることによってその単元を学んで行きます。勉強はしんどいし辛いけれど、試験もきつけれど…。信仰の学校に入れられた私たちもそのようにして学んで行くのです。愛する神は、愛するがゆえに私たちをいろいろな状況に置いてくれています。あなたが置かれている状況もそうです。しっかり主を信頼して見上げることです。そして、あなたにはすばらしい永遠の祝福がもう約束されているのです。神の奴隷として生きて行くあなたに約束されているのは永遠のいのちです。永遠ののろいでもさばきでもないのです。永遠の祝福が約束されています。その約束をしっかり覚えることです。これが生まれ変わった私たち、神の奴隷に約束されているものです。

この二つを比較した上で、最後の23節はまとめになります。

### 3. まとめ 23節

#### 1) 罪から来る報酬は死

パウロはここでも対比を用います。「報酬と賜物」を対比しています。「死と永遠」のいのちを対比しています。23節**「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」**「報酬」とは自分自身が得たものです。何を得たのか、「死」だと言います。つまり、パウロはここで先にも見たように、肉体の死に関しても、霊的な死に関しても、永遠の死に関しても、人のすべての死は罪人が罪を犯すことによって自分自身が得たものと言うのです。あなたが罪を犯すことによって、あなたが得たもの、報酬なのです。だから、なぜ、あなたは肉体の死を自分の身に招くのか、どうして永遠の死をあなたの身に招くのか、それはあなたがそのような選択をしたからだと言うのです。賜物とは違うのです。あなたがしたことに対して当然の報いとして得たもの、それが死であるとパウロは言うのです。バークレーはこの「報酬」と「賜物」ということばに関してこのような説明を加えます。「ここでパウロは二つの軍隊用語を用いている。この『報酬』ということばは兵士の給料の意味で、体を危険にさらし、額に汗して得たもの、当然、彼に支払われるべきものであって、彼から取り上げられないものである」と。一生懸命自分で頑張って、その上で自分のものとして手に入れたもの、それがこの報酬だと言うのです。

最初に話したように、自分の肉体的な死に関しても、霊的な死に関しても、永遠の死に関してもだれも人を責めることはできません。日々、私たちの肉体が弱って行くというのは罪のもたらした結果です。私が罪を選択したのです。毎日の生活において、神の特別な祝福をいただかないで歩み続けるという選択をしていたのです。だから、霊的に死んでいるのです。そして、永遠の地獄に行くこと、それは自らがその選択をしたからです。

#### 2) 神の下さる賜物は永遠のいのち

それと対比して、「**しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」**、ここにも賜物ということばを使っています。同じように、バークレーはこう続けます。「賜物に対しては、彼は『カリスマ』ということばを用いている（これはギリシャ語で「カリスマ」ということばが使われているのですが）、「この『カリスマ』、またはラテン語の『ドナティーブン』、これは兵士たちが時折受ける、全く無代価の勞せずして与えられた贈り物のことである。特別な機会、例えば、皇帝の誕生日や即位日といった記念日に、皇帝は兵士に無代価の金銭を贈り物として分配した。それは働いて儲けたものではない。それは贈り物である。皇帝の好意と恩恵の贈り物である」と。

パウロはこのように違うことばを用いることによって、明確に「報酬と賜物」を明らかにしようとしたのです。もし、私たちが自分にふさわしいものを得ようとするなら、それは滅びでしかない。罪を選択した者に一番ふさわしいものです。しかし、神が一番ふさわしくないものを私たちに与えてくださったのです。「救い」です。だから、この救いは神の一方的な賜物なのです。私たちが何かしたからではない、神が私たちに一方的にそれを与えてくれたものです。賜物として与えられたものは「**主キリスト・イエスにある永遠のいのち**」であると言います。

「**主イエス・キリストにある**」と言っています。つまり、パウロはここでイエスがだれであるかということをもう一度教えているのです。パウロは、この永遠のいのちは主イエス・キリストに属するものだと言っています。主イエス・キリストは永遠のいのちを持っておられる方で、その方があなたにそれを与えるとされたのです。だから、イエスご自身が持っていないものを与えると言ったのではないのです。どこかから借りてきて、だれかからもらってではないのです。パウロはここで、この主イエス・キリストというお方は永遠のいのちを所持している方、その方がご自分の持っている永遠のいのちを贈り物として私たちに与えてくださったと言うのです。

ヨハネ第一の手紙5：20で「**しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。**」とヨハネが言っています。イエスはヨハネ14：6で「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。**」と言われました。イエスは繰り返し私たちにこの方にいのちがあるということを明らかにされました。いのちを持っておられ、いのちを人々に与えることのできる方、まことの創造主なる神です。その方が、信じる私たちに約束してくださったもの、それはこの方がお持ちである永遠の尽きることのない死ぬることのないいのちです。

私たちはすばらしい祝福をいただいたのです。私たちは死を迎えてもそれで終わりでないことを知っています。その後、私たちはこの主にお会いして、そして、この方と永遠をともに過ごせると。クリスチャンの皆さん、そのことをあなたは知っています。今まで知らなかった人はいないはずですが、でも、もう一度今私たちはこのみことばを通してそれを教えられました。イエスを信じているあなたには永遠のいのちが与えられている。では、永遠のいのちをいただいている者として生きることです。その希望を持って生きることです。いろいろな問題があっても私たちはその先を見るのです。そして、神が私を導き続けてくださる、だから、心配することは止めよう、恐れることは止めようと、その生き方、その道を選ぶこともできるけれど、私はこの神を信頼して生きて行こうとするのです。罪赦された者として、生まれ変わった者として、このようなすばらしい祝福を、そして、永遠の祝福をいただいた者として、その祝福をもらった者にふさわしい生き方をこれからして行こうと。

皆さん、そのような生き方をしていますか？希望を持って、喜びを持って生きていますか？あなたのうちにその実は成長していますか？あなたは変えられていますか？神の働きを罪によって邪魔していませんか？どうぞ、信仰者の皆さん、この約束に立って歩んでください。あなたは生まれ変わったのです。新しく生まれ変わりました。そして、生まれ変わった者はそれにふさわしい生き方を為して行くことができるのです。

前回も見たように、その歩みを選択するかどうかはあなたの選択です。でも、それは神のみこころであり、神があなたに望んでいることです。立ち止まらないで、後ずさりせずにしっかりと前に向かって歩むことです。この恵みを感謝して生きることです。もし、この中にまだイエス・キリストを信じていない方がおられるなら、エレミヤがこのようなことを言っていることを覚えてください。「**人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だが、それを知ることができよう。：10 わたし、主が心を探り、思いを調べ、それぞれその生き方により、行ないの結ぶ実によって報いる。**」と。神はあなたの心を知っておられます。あなたの罪深さを知っておられます。あなたがその罪を悔い改めて主に救いを求めるなら、神はあなたに救いを与えてくださいます。でも、拒み続けて行くなら、主はあなたの選択に対して一番ふさわしい報いを与えると言われます。それは永遠のさばきです。そのようなことがないように主の前に正しい選択をなしてください。

チャールズ・ガブリエルという人は、このような曲を書きました。このオリジナルの歌詞は次のとおりです。

慈しみのうちに主は来られた　あわれみにおいて私のたましいを救うために

そして、罪と恥の深みから　恵みによって主は私を引き上げてくださった

これは「**汚れと恥との**」というタイトルのついた聖歌430番です。日本語の歌詞を見ると、この歌詞もとても良いのです。最後に、それを読んで終わります。

汚れと恥との深みに陥り　もがけるこの身を　主は見出し

優しき恵みの　両手（もろて）を差し伸べ　引き上げ給えり　ああ主は愛なり

神の恵みを感謝する者でありたいです。